



新1年生保護者説明会

今日15日(木)は、来年度から入学する新1年生への保護者説明会を行いました。4月から入学予定の新入生の保護者の方々に、4年ぶりとなる集合型となる説明会を実施しました。私の方からは、帯西の「わくわく」と「帯西レンジャー」の学校の取り組みを紹介しました。小学校は、小さな社会です。その道徳的行為の実践の場で、子供たちが帯西レンジャーと共に活躍すると、学習や行事等で学んだことの意義や自らの成長を実感するのです。その実感は、子供たちの「わくわく」する行動のエネルギーとなり、子供自身が自分で考えて日常生活の改善を図るようになり、学習意欲の向上へと結び付きますと話しました。



新1年生の保護者の皆様に入学前の心得や準備などについて理解を深めていただき、新1年生が安心して入学し、充実して「わくわく」する学校生活を送ることができるよう、準備を進めていきたいと思えます。

来年度の入学児童は70人と、年々児童数減少に悩まされていますが、もし知り合いの方や親戚の方で転居を考えていらっしゃるご家庭がありましたら、是非「わくわく」する学校、帯西を紹介してください!

学校百景⑩ 掃除の時間の跡の廊下

右の写真ではあまりわからないかと思いますが、これは掃除の時間後の廊下に浮き上がる模様です。何の模様かという、雑巾で廊下を拭いた後の模様です。

今の時代は、家庭の中でもロボットが掃除をするようになり、一見雑巾がけは無駄なようなものに見えるかもしれません。しかし、学校は教育の場であり学びの場です。体験することで見えてくることもあります。廊下掃除をしている子供たちは「ほら、隅にごみたまっているよ。」「手洗い場の下は拭いた?」など掃除をしながら新たな気づきを得ています。この気づきは、子供たちが社会に出て行ったときに大いに役立つのだと思います。社会では人に認められ、必要とされ、人の役に立つような行動が求められます。それがすなわち仕事であり、そのためには「気づき」がとても重要になります。雑巾がけによって何らかの気づきがあるならば、それは子供たちに必要なものになるでしょう。社会では、様々な気づきによって、環境が改善され、よりよいものを求めていきます。それは、そこにいる一人一人の感性や体験から生み出された「気づき」があるからだと考えます。掃除当番という役割の中で、新たな気づきを得て、そこを改善していこうとする日々の小さな実践が、「わくわく」する学校を支えているのだと思います。掃除を終えて廊下を誇らしく見ている6年生の表情と、廊下の美しい模様を見ながら感謝の心で一杯になりました。

